

自由を得るために——「ガラテヤの信徒への手紙」

もし人がキリスト教について「優しさ」「穏やかさ」といったイメージを持っていたとしたら、「わたしはあきれ果てている」(1:6)、「呪われるがよい」(1:9)、「あなたがたのことで途方にくれている」(4:20)といった言葉に驚き、当惑するだろう。しかしこのような激しい言葉は、人を本気で愛して、その人の中にキリストの福音が宿るために奮闘したパウロのほとぼしる思いから出たものである。この書の中にはイエス・キリストの福音が凝縮されている。

ガラテヤは小アジア中央部。成立は諸説あるが、54年頃か。

1. 1:4「キリストは、わたしたちの神であり父である方の御心に従い、この悪の世からわたしたちを救い出そうとして、御自身をわたしたちの罪のために献げてくださったのです。」

神の御心は漠然としたものではない。「御心」と訳されるギリシア語「テレーマ」は、「意志」「熱望」という意味である。神は、この世界が悪に満ちているとご覧になり（イザヤ 59:15 参照）、その悪の支配下に閉じ込められている私たちを救い出すことを切に願い、決意された。

そのような神の意志と熱望がイエス・キリストをとおして働き、実現した。「主は……熱情を上着として身を包まれた。」イザヤ 59:17

私たちが罪の負い目から解放され、また罪の束縛と影響力から自由になって神に向かって生きるために、キリストは人の罪を引き取り自分に引き受けて死なれた。「世の罪を取り除く神の小羊」ヨハネ 1:29

2. 1:12 - 13「わたしはこの福音を人から受けたのでも教えられたのでもなく、イエス・キリストの啓示によって知らされたのです。あなたがたは、わたしがかつてユダヤ教徒としてどのようにふるまっていたかを聞いています。わたしは、徹底的に神の教会を迫害し、滅ぼそうとしていました。」

この福音（人と世界をしあわせにする良きおとづれ）は、パウロが自分で考え、探求の末に獲得したものではない。自分の外から（自分の内面をとおしつつ）イエスが自分に出会ってくださり、自分に示してくださったもの。

「啓示」 **ἀποκάλυψις** アポカリュプシス＝覆いを取り除く。心の目と耳が開かれ、それまで見えず聞こえなかった神の現実と呼びかけがはっきりと見え、聞こえるようになる——神がそうしてくださるのが「啓示」ということ。

これによってパウロに回心が起こった。古い自分が破れてキリストの十字架と共に滅び、新しい自分がキリストの復活と共に神によって創造された。「大切なのは、新しく創造されることです」(6:15) とは、他人事や一般論を言っているのではなく、自分の身に起こったことがガラテヤの人々にも起こってほしいと願って語っている。

3. 2:16「人は律法の実行ではなく、ただイエス・キリストへの信仰によって義とされると知って、わたしたちもキリスト・イエスを信じました。これは、律法の実行ではなく、キリストへの信仰によって義としていただくためでした。なぜなら、律法の実行によっては、だれ一人として義とされないからです。」

自分の正しい行いの積み重ねによっては人は救われない。「ただイエス・キリストへの信仰に

よって」救われる。ここは直訳すれば「イエス・キリストの真実によって」。私たちの信仰によってではなく、イエス・キリストが真実を貫いて生きて死んでくださったその真実によって——とも理解できる。私たちは無力であってよい。

「～と知って」とあるのは重要。信仰とは勝手な自分の思いこみではなく、神の事実・現実を知らされて知ること（認識）。

4. 3:26 - 28「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。」

「神の子」という祝福を、私たちは信仰をとおして確実に受ける。

キリストを着ている——キリストは私たちを包み守るあたたかい外套。生きて働く作業服。

神の前の平等（優劣、上下はなく、高慢になることも卑下することもない）——自分を価値あるものと認め、人のことも認める。そこから豊かな交流が起こる。

5. 4:6「あなたがたが子であることは、神が、『アッバ、父よ』と叫ぶ御子の霊を、わたしたちの心に送ってくださった事実から分かります。」

「アッバ」お父さん！ イエスがゲッセマネで神と呼ばれた声がここに反響している。マルコ 14:36、ローマ 8:15。

6. 4:19「わたしの子供たち、キリストがあなたがたの内に形づくられるまで、わたしは、もう一度あなたがたを産もうと苦しんでいます。」

これがパウロの切望。真実の思いの吐露。

7. 5:13 - 14「兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい。」

「自由」こそは聖書の中心的メッセージ。ひとりの神を愛し畏れることによって私たちは世と人の恐れから解放され、この世に生を受けたことの意味と使命を感じつつ、義務的にではなく、許され励まされ、充実をもって生きることができる。

8. 6:17「これからは、だれもわたしを煩わさないでほしい。わたしは、イエスの焼き印を身に受けているのです。」

焼き印。パウロの魂（また身体）には「イエス」という焼き印が押されている。「あなたはわたしのもの」というしるしである。私たちが洗礼を受けた／受ける時、十字架のしるしを額に記されたが、それはこれと同じ。私たちはキリストのものとされ、キリストの保護と導きのもとにあってキリストの業を行う。

○ガラテヤ書は、パウロが自分個人の経験や心情を率直に表現するとともにイエス・キリストの福音の中心を明確にした極めて重要な書簡である。

(2007/07/08 井田 泉)